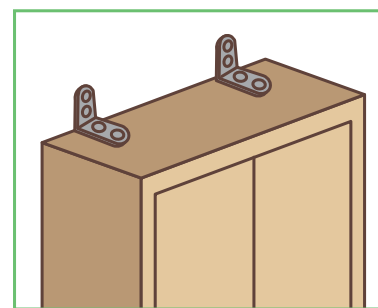


家具の転倒や置物の落下に注意しましょう！

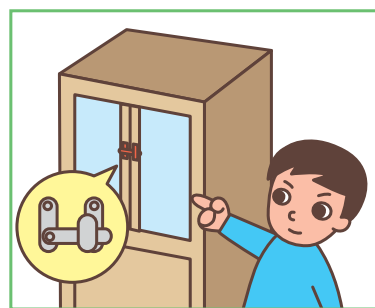
阪神・淡路大震災では、死亡者全体の88%が圧迫死といわれています。建物の耐震性が十分でも、強い揺れにより室内の家具が転倒し、下敷きとなって大けがを負ったり命を失うことがあります。

特に上階では揺れが大きくなるため、タンス、本棚、ピアノなどの重量物はきちんと固定する必要があります。

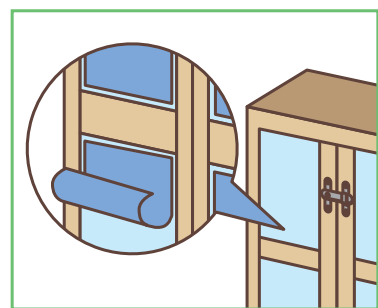
家の中の安全対策



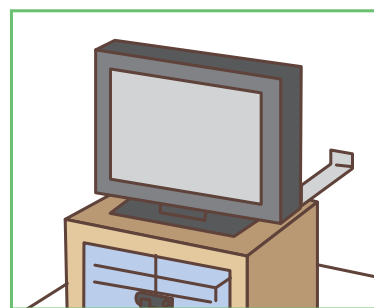
タンス、食器棚、本棚はL字金具やベルトで固定しましょう。



食器棚や本棚については、中身が飛び出さないよう、「さん」を付けましょう。



窓や食器棚などのガラスには、飛散防止フィルムを貼りましょう。



冷蔵庫、テレビ、ピアノなどは、壁面に固定して、移動を防止しましょう。

地震による建物被害

一般的に住宅の耐震性は、古いものほど低いと言われており、老朽化や増築などにより建物バランスが悪い場合も倒壊の要因であると言われています。

特に昭和56年の建築基準法改正で耐震基準が強化され、安全性が高められました。建物の耐震面では、建築年が昭和56年以前、以降が境となりますので、一度確認をしましょう。

建物は老朽化していきます。地震では、建物被害として、瓦、外壁損傷や、老朽化による部分的な損傷が予測されますが、地形や地盤によって、建物の傾き、建物基礎やブロック塀などの損傷が予測されます。

日頃から自宅の外壁や基礎、ブロック塀をチェックし、早めの対策を行い、老朽化した住宅の耐震化が必要です。

- ドアあるいは窓を閉めたとき、枠と建具との間に著しい縦長の三角形の隙間があいている。
- ドアあるいは窓の建付けが悪く、建具の開閉が変形のために思うようにいかない。
- 窓の敷居が著しく水平を欠いている。
- 建物の壁面が傾斜しているのが、肉眼でもわかる。
- 床面の傾斜が座っていて感じられる。
- シロアリの成虫（4枚羽根のついたシロアリ）が浴室から飛び出す。
- 屋根の棟あるいは軒先が波打っている。
- モルタル塗壁に長い斜めのひび割れが入っている。

想定される大規模地震

愛知県は、海洋型地震として、東海地震、東南海地震、東海、東南海連動地震。そして、内陸型地震では、養老・桑名・四日市断層帯地震を想定し、大口町では、東海、東南海連動地震が発生した場合が最大震度5強と想定されていました。

しかし、東日本大震災以降、地震の想定見直しにより、平成25年8月には、国が静岡県駿河湾から九州東方沖まで続く深さ4000メートル級の海底の溝「南海トラフ」沿いで連動発生する「南海トラフ巨大地震」を想定し、マグニチュード9クラスの巨大地震が発生することで、東海地方を中心に大きな被害が発生すると想定しています。

	規模 (マグニチュード)	町内最大震度	種類
東海地震	7	5弱	海洋型
東南海地震	8	5強	海洋型
東海、東南海連動地震	8	5強	海洋型
養老・桑名・四日市断層帯地震	7	5強	内陸型

愛知県地域防災計画より

	規模 (マグニチュード)	町内最大震度	種類
南海トラフ巨大地震	9	6弱	海洋型

内閣府「南海トラフの巨大地震検討会」資料より

※内閣府の発表では大口町の最大震度は6弱となっていますが、町内の一部では6強と表す地域があります。

地震防災マップについて

このマップでは、国・愛知県などが想定している地震の中で最大クラスと想定される国の南海トラフ巨大地震のデータをもとに作成しました。国の報道発表では、大口町の最大震度6弱とされていますが、詳細なデータを地図表示を行った結果、一部では最大震度6強を表す地域もあります。

この東海地方は、昔の記録から大きな地震がいつ来てもおかしくないと言われています。「震度6弱、6強の地震が起きたらどうなるか？」を考えていただき、できることから地震対策を進めていただきたいと思います。

このマップは、内閣府に設置された、「南海トラフの巨大地震検討会」の震度分布推計結果（最大クラス）をマップとして表しており、さまざまな条件を加えた想定マップです。